

て る 道 徳 の 時 間 の 指 導

ジェクタビリティ	指 導 の 要 点 と 手 だ て ○ 1～2週間前に意識調査を実施する ○ 意識調査に表れた実態をもとに授業の設計をする。
判断力 表現力	○ その子らしさの把握 → 座席表カルテ ・ 主題構成の吟味 ・ 発問研究 ・ 意図的指名構想
判断力	1. 価値内容について書いた意識調査用紙を再配布し、ねらいとする価値への方向づけを図る。 2. 主人公のおかれている状況や立場等について構造的に把握させた後、具体的細部を検討させていく。 先行オーガナイザー法の導入
判断力 表現力	3. 資料の提示を視覚型、聴取型、文章読み取り型を組み合わせることにより一人一人が場面状況をより認知しやすくする。 4. 主人公のかかえている悩み、問題等を場面状況と関係づけてとらえるようにする。 絵画的構造的板書の活用
表現力 思考力	5. 「自分の考えをもつ」ことは相互交流して多様な考えに出会う際の前提となる。他の考えとの違い、浅さ、深さ、よさ等が分かるためには、「自分の考え」を明確にした上での比較が必要である。 書く活動の導入→道徳シートの活用
表現力 思考力	6. 子ども自身が、座席表をもとに意見交流したい相手をきめることを基本としたい。 子ども自身が活用する座席表の活用 意見交流の場作り ○ 対話形式 ○ ワークショップ形式 ○ グループ討議形式 ○ ミニパネル形式
創造力	磁石氏名板の活用 —— 推薦氏名
判断力 表現力	7. 話し合いの組織化を図っていく。その際、対立する見方、別の角度からの補足など多面的な検討、吟味ができるように意図的氏名、推薦氏名等を取り入れていく。 8. 価値の内面的自覚は、高められた価値観＝視点3と自分なりの判断や考え＝視点2、それまでの価値に対する考え＝視点1を比較させることで具体的にさせていきたい。 書く活動の導入→道徳シートの活用

基礎的・基本的な内容の分析

- 学習指導要領の目標及び内容
 - ・ 実践学年の目標及び内容
 - ・ 道徳的内容の系統性
 - ・ 発達段階の分析
- 主題構成の吟味設定まで
 - ・ 価値について
 - ・ 児童の実態分析
 - ・ 指導観
- 資料の選択
- 学年重点事項との関連
- ねらいの焦点化

基礎的・基本的な内容と授業の構成

- 偏った見方や考え方からのだけの検討にならないよう配慮する。
- 発達段階や実態を的確に把握し、発問や板書構成を工夫する。
- 一人一人のその子らしい考えを把握し、指名構想に生かす。

を 生 か し 伸 ば す